

円覚寺

えんがくじ

国宝の舍利殿を有する禅の名刹

宝冠と胸飾りをまとう
おごそかで頼もしき丈六仏



宝冠釈迦如来坐像

木造、像高260センチ、頭部のみ鎌倉時代。「華嚴経」の世界を説く姿であることから華嚴の釈迦(盧遮那仏)とも称される。胴体は焼失し、江戸初期に補造されている。

円覚寺は、元寇という未曾有の国難を鎮定した北条時宗が、みずから支えた禅の教えに報い、元寇で戦死した両国の殉死者を分けへだてなく供養するために創建した寺である。この発願によって造立されたのが、仏殿中尊の釈迦如来像だ。とはいえ、通形の釈迦仏とはいずれぶんちがう。髪を頭上で高く結び(宝髻)、宝冠と胸飾りをつけた像容で、一般に宝冠釈迦像と呼ばれているお姿である。これは、〈瞑想のすえ悟りを開いた釈尊は、宇宙の真理をすべての人に照らす盧遮那仏にほかならない〉とする、『華嚴経』の教えにもとづくものという。おそらくは、金色の装身具をまとう宇宙的スケールの仏の力で、元寇後のこの国を荘厳したい、そんな時宗らの思いが込められたものではなかっただろうか。

薬師如来立像

木造、像高160.6センチ、南北朝時代。仏殿脇の選仏場(坐禅道場)の本尊。衣文を深く彫出し、袖下を長く垂らす姿で、穏やかなお顔にうっすらと残る唇の紅が印象的。



写真：勝倉峻太

そのお姿は堂外からもよく見えますが、近づいて拝すれば大きさがより実感できる。遠くからはいかつく見える表情も、張りに満ちた整った目鼻立ちで、なんともいえない慈しみをたたえたお顔に見えてくるのだ。



上：天井に白龍図を描く仏殿内部。本尊の脇侍はもとは文殊・普賢菩薩だったというが、江戸初期の再建時に梵天・帝釈天に変わったとされる。

下：本尊の向かって右に立つ脇侍の梵天像。左側の帝釈天とともに、宋風に造立された華麗なお姿である。

阿弥陀如来および両脇侍立像

銅造、阿弥陀が42.4センチ、観音が32.8センチ、勢至菩薩が32.2センチ、鎌倉時代。重文。いわゆる善光寺式の三尊像で、通常は鎌倉国宝館に寄託されるが、11月初頭の宝物風入りのときには寺にもどり、拝観可能。



円覚寺三門。拝観は不可だが、楼上には十一面観音、十六羅漢像などを安置する。

円覚寺(臨済宗大本山)

鎌倉市山ノ内409 ☎0467-22-0478 ● JR北鎌倉駅から徒歩1分 ◎ 拝観情報 = 拝観料300円、午前8時~17時(冬期は16時)、仏殿は堂外から拝観、選仏場は入堂拝観可。

趣深い北条氏の廟堂

円覚寺
塔頭

佛日庵

ぶつにちあん

ほとけの深い境地を 思わせる地蔵尊

円覚寺の参道を奥に進むと、印象的な茅葺き屋根の小堂が現れる。北条時宗公（および貞時公・高時公）の御霊をまつる開基廟である。

その堂内、三公の坐像がならぶ右の脇に、十一面観音坐像が奉安されている。この古色蒼然たるお顔の観音像こそ、時宗公の守護仏と伝えられるもので、鎌倉観音霊場の結願となる三十三番札所本尊である。国難をみごとに克服し、学問の神、滅税の神とも崇められた時宗公にあやからうと、参詣する人も多い。

となりの新本堂のご本尊、地藏菩薩もすばらしい。拝するほどに、深い境地を秘めた眉目秀麗なお顔に魅入られる——そんな美像である。

写真 本田不二雄



十一面観音坐像

木造、像高57.7センチ、面部は鎌倉時代、ほかは江戸時代。開基廟（佛日庵御霊屋）の本尊。北条時宗公が、蒙古軍に対処する心がまえのため禪の修行をしたときに拝んでいた像と伝わる。



地蔵菩薩坐像

木造、像高51.2センチ、南北朝時代。佛日庵の本尊。延命地藏尊と呼ばれ、延命利生や母子擁護の祈願仏として知られる。

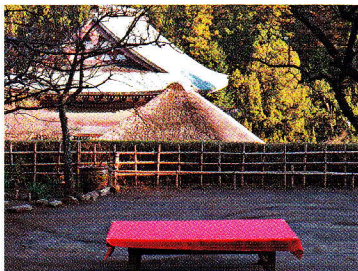
北条時宗公および貞時公、高時公の御霊を祀る開基廟。三公の僧形木像を奉安し、堂の下には各遺骨を納めた石櫃があるという。

佛日庵（円覚寺塔頭）

鎌倉市山ノ内434（円覚寺山内） ●JR北鎌倉駅から徒歩5分 ◎拝観情報＝拝観料100円（円覚寺入山とは別途）、午前9時～17時（冬期は16時）、仏像の拝観は堂外より。



選仏場の脇から路地を入った高台にある塔頭。希望すればご本尊の拝観も可(寺用のときなどを除く)。客殿の前に置かれた縁台は、貴重な憩いの空間だ。



円覚寺
塔頭

龍隠庵

りゅういんあん

境内を見下す特等席



聖観音菩薩像

木像、像高29.5センチ、室町時代中期ごろ。岩座の上に安座する像で、宝冠を欠き、持物が水瓶となっているほかは、東慶寺の水月観音と酷似している。東慶寺像よりさらに小さいものの、精緻な彫りがほどこされた気品ただよう観音さまである。

龍隠庵(円覚寺塔頭)

円覚寺山内 ☎0467-25-1447◎拝観料なし、入堂拝観可。

円覚寺
塔頭

黄梅院

おうばいいん

境内最奥の和みの空間

境内参道のつきあたりにある塔頭寺院。円覚寺の住職もつとめた名僧・夢窓疎石の墓所として開創。境内は四季の花々や紅葉に彩られた和みの空間である。



千手観音立像

銅造、像高32.8センチ、室町時代。もとは懸仏(銅製の鏡に仏像を装着したもの)用の像だったという。このほか、創建当初の作という写実的な夢窓国師坐像、境内に建つ聖観音堂のもとの本尊で、戦後種家から奉納された伝白鳳仏の聖観音立像も奉安。

黄梅院(円覚寺塔頭)

円覚寺山内 ☎0467-22-1032◎拝観料なし、仏像拝観は堂外より。

写真=勝倉峻太